

## 成田市教育委員会会議定例会会議録【会議概要】

平成22年9月成田市教育委員会会議：定例会

期日 平成22年9月22日(水) 開会 午後2時00分

閉会 午後3時40分

会場 成田市役所5階503会議室

### 出席委員

委員長	荒井 清	委員長職務代理者	小川 信子
委員	山口 恵子	委員	秋山 皓一
教育長	佐藤 玉江		

### 出席職員

教育長	佐藤 玉江(再掲)	教育総務部長	関川 義雄
生涯学習部長	吉田 昭二	教育総務課長	坂本 公男
学校施設課長	堀越 慎一	学務課長	小舘 修
教育指導課長	五十嵐 正憲	学校給食センター所長	古関 修
生涯学習課主幹	大木 英行	生涯スポーツ課長	檜垣 好克
公民館長	須藤 清子	図書館長	大木 禎夫
生涯学習課主幹	堀越 美好	教育総務課主幹(書記)	秋山 雅和

傍聴人：0人

### 【会議概要】

#### 1. 委員長開会宣言

#### 2. 教育長報告

##### ① 主催事業

- ・9月5日～18日 成田市立小学校運動会、中学校体育祭

市内の各小中学校で運動会・体育祭が行われた。熱中症が心配される中での行事だったが、

練習中に多少具合の悪くなった子はいたが、運動会当日に問題となるような事故はなかった。

5日には大栄中学校の体育祭があり、秋山委員にも参加いただいた。開会式では陸上の全日本中学校陸上競技選手権大会で優勝した選手への賞状授与があった。また、競技種目の決定は、先生と生徒たちがみんなで考えて決めるということだった。大栄中学校らしい纏まった感じの体育祭だった。

11日にはほとんどの中学校で体育祭が行なわれ、18日には春に運動会を実施した学校と11日に実施した桜田小学校を除いたほとんどの小学校で運動会が開催された。小川委員にも吾妻小学校と橋賀台小学校には同席いただいた。どの学校も特色ある運動会が行なわれ、多くの参観者も感心して観ていた。また、子供たちからはとても一生懸命やっている様子が伝わってきた。普段はいろいろな問題があっても、純粋に懸命に活動する様子からは、周囲の大人がしっかりと子供たちを応援していかねばならないのだということを改めて感じさせられた。

・ 9月11日 成田市生涯学習講演会

昨年、「熊野古道を読み解く」という内容で開催した第1回が大変な反響があり、今年も明成会（明治大学・成田社会人大学のOB中心の生涯学習サークル）との共催で、会場を中央公民館で開催させていただいた。今年も「世界遺産・熊野古道を読み解く」をテーマに、明治大学の林雅彦先生から「熊野比丘尼の絵解き」と題して、また、熊野に魅せられて熊野に移り住んでしまったというフリーライター細谷昌子氏から「熊野の祭り～その魅力とみどころ～」と題した講演会があった。大変盛況で会場はほぼ満席であった。

・ 9月14日 校長会予算要望

新年度に向けて校長会からの要望を受けた。既に教育委員会の予算はかなり多額であり、また、市としても今後の数年間は大規模事業が目白押しで予算に余裕がなく、消耗品などの細かなところは工夫も必要だをお願いした。特別支援学級に係る人的措置に対してはもう少し支援を充実できるような予算の要望があり、これについては検討する旨、話した。研修会が多いことの負担軽減等についての要望もあったが、研修自体は大切なので、日程が重複しないようにすることや参加者について工夫することなど、先生方も参加のあり方等について考えていただくこととし、後日、文書で回答するとした。

・ 9月14日 第4回市民運動会協議会

来年のプログラムについて協議。小学生中心となるプログラムを減らし、地域や団体・グループが中心となるプログラムに変更することが出来ないかを検討することとなった。

・ 9月18日 明治大学・社会人大学 フィールドワーク

東京・駿河台の明治大学校舎へ行って、大学の先生方から直接講義をいただくというもので、今年はモンゴルの歌についての講義を受けた。モンゴルの歌を歌う著名な方がすばらしい歌声を披露してくださり、「馬頭琴」という楽器での演奏とともに歌を鑑賞させていただいた。

・ 9月20日 第19回成田市小学生相撲大会

県大会の予選も兼ねた大会で、団体戦と小学校1年生から6年生までの個人戦があった。団体戦は成田小学校が優勝。1年生の部では女子も参加していた。個人の対戦では1対1で戦うということは大変なことでもあるが、学ぶことも多いと思われる事業であった。

## ② 市議会

・ 8月27日～9月16日 成田市議会9月定例会

教育委員会関連の一般質問については前回の会議で概要説明させていただいたが、答弁の内容については資料を参照願いたい。

・ 9月6日 教育民生常任委員会

「成田市文化基金の設置、管理及び処分に関する条例」の制定を提案し、全会一致で可決いただいた。また、中郷小学校の美郷台小学校への統合、久住第一小学校と久住第二小学校が統合して久住小学校となることから「成田市立小学校設置条例の一部を改正する条例」について審議いただき、可決いただいた。

・ 9月10日 総務常任委員会

久住第二小学校、中郷小学校の閉校記念式典に関する補正予算について、それぞれ800万円を限度に負担するということが審議、可決いただいた。

## ③ その他事業

・ 9月4日 幼稚園子育て支援・親子ふれあいコンサート

今年で10周年を迎えた。午前と午後の2回行なわれ、千葉ニューフィルハーモニーの演奏があり、子ども達も曲に合わせて歌を歌うなど、大変喜んでいました。

・ 9月5日 成田市民サークル合同発表会（生涯学習課より報告）

11月17日には「成田市国際市民フェスティバル」を行うが、これまでずっと共催という形で行ってきたものを、今年は時期をずらして独立して開催をした。

会場は成田観光館のポケットパークに特設スタジオを作って、市民の方・観光客の方等にご覧いただいた。最後のフィナーレには飛び入り参加のご婦人もいたりして、市のPRには

なった。

- ・ 9月9日 平成22年度印教連教育委員長会議

(荒井委員長より報告)

北総教育事務所長から講演があり、主に印旛管内で発生している先生方の不祥事についての話であった。教育委員長としては、やはり先生方の日ごろの動向などにも関心を持って留意する必要があると感じた。

市町村の意見交換では、酒々井町の「教育要覧」を見せていただき、非常にオリジナルなもので、酒々井町の教育への方向性が良くわかる内容であった。また、佐倉市では生涯学習推進計画の見直しをしているが、以前のものと同様の内容となってしまう、あるいは他市町村と同様となってしまうということで悩んでいる。他市町村ではどのように考えているのかとの話があった。他市町村でも成田市と同じように悩んでいる様子が伺えた。

- ・ 9月10日 平成22年度成田市交通安全ポスター展応募作品の審査

応募作品の中から教育長賞を決めさせていただいた。今後、展覧会が開催される予定となっている。

- ・ 9月13日 第30回成田市産業まつり実行委員会

11月20日、21日に開催される予定。

- ・ 9月13日 成田国際高校少林寺拳法部の全国高校少林寺拳法大会個人優勝報告

個人の組み演舞で優勝及び3位に輝いたとの報告があり、その後、市民ロビーで演舞の披露があった。

- ・ 9月14日 大栄中学校陸上部選手の全日本中学校陸上競技選手権大会優勝報告

大栄中学校の選手から全日本中学校陸上競技選手権大会優勝報告があった。

- ・ 9月15日 国体出場成田市出身選手壮行会（生涯学習部長より報告）

成田市所属選手の壮行会で国体選手16名と身体障害者大会の選手5名が対象。水泳はすでに終了し、成田高校の選手などメダルを獲得した選手も参加した。その他、高校野球、陸上、ボート、バレーボール、ソフトテニス、卓球、馬術、柔道。身体障害者の方では陸上、フライングディスク、グランドソフトボールの選手が参加。市長・議長から激励の挨拶。また、激励金の贈呈があった。

- ・ 9月16日 議場コンサート

初めての試みで、開かれた市役所・議会への取り組みの一環ということで、成田小学校の合唱部に歌っていただいた。NHKの合唱コンクールで千葉県第3位の実績を持つということで、依頼。今後のあり方については検討していくこととなる。

- ・ 9月17日 青年海外協力隊派遣者の市長表敬訪問

58歳のシニアボランティアの方で、エルサルバドルやボリビアに派遣された経験があり、その後会社員を経て、子供も成長したということで、再度2年間、コロンビア体操連盟に派遣されるとのこと。

- ・ 9月19日 成田市敬老会

9月18日と19日の2日間にわたり国際文化会館で開催された。式の最後に老人クラブ会長からの謝辞があった。「老人クラブとしては被爆地に届ける千羽鶴の作成に協力をした。出発式時には成田幼稚園の子供たちが歌った『一人の小さな手』と言う歌があり、一人ひとりの手や体・心は小さいけれど、たくさん集まれば大きな力になれるというような歌。自分たちは高齢でもあり、それぞれは小さな力ではあるが頑張っていきたい。皆さんのご協力をお願いしたい」と挨拶をされていたのが大変印象的であった。

#### 《教育長報告に対する主な質疑》

委員：小学校の運動会での印象を報告したい。吾妻小学校、新山小学校、橋賀台小学校の3校に行ってきた。

どこの小学校も子供たちがテントの中でイスに座っていた。吾妻小学校では昨年からということだが、どこの学校も人数分のテントの手持ちはないために、手配はなかなかたいへんであるとのこと。橋賀台小学校ではイス持ち、テーブル持ちの保護者の観客が多かったように感じた。校長先生の中には、来年も暑いかもしれないので、アンケートをとるなどして時期の変更も考えているというような話もあった。

委員：我孫子市、四街道市などは全校に公費で天幕を用意してあったように記憶している。運動会だけでなく様々な行事に使用できるので、成田市でも整備することも必要なのではないかと感じる。

佐藤教育長：今年はかなり暑かったので気を使った学校が多かったと思うが、学校によっては木陰があつたりして、必ずしも人数分が必要ではないかもしれないし、逆に配慮の不足した学校もあったかもしれない。また、借りるとするのは、他の学校と重複しないよう調整して借りに行って、掃除して返却するというのがかなり大変でもあるようだ。

委員：大栄中学校ではテントが足りないということで小学校から借りてきたということだ

った。津富浦小学校、大須賀小学校では花火も上がって、運動会らしい雰囲気を感じた。また、津富浦小学校では準備体操を英語でやっていて感心した。

委員：成田小学校に行ったが、テントはしっかりと用意されていた。不足分は花崎町など近隣町内会から借りたとのことで、練習のときから用意されていたようだ。来年は運動会を1週間ずらすこと等を検討しようかと考えているとのことでもあった。ニュータウンのある地区では、運動会で騒がしくなるのでご理解願いたいというようなチラシが各戸に事前に配られた地域もあるということだった。花火は微妙な天気の場合には判断材料になるので、上げて欲しいとの意見もある。

委員：18日には花火を6時頃に2回にわたってあげていたが、いろんなところであげていたようで、どこであげているのか判断できなかった。そのような状況では効果も少ないのではないかと感じる。

坂本教育総務課長：花火の件については、空港周辺では空港会社との協議により6時前にあげるようにしている。また、打ち上げの数も減らし、ニュータウンなど苦情があったところは上げないようにしている。

委員：運動会の花火もある意味では、古きよき日本の伝統であり、そういうことを守ることも大切なのではないか。また、来賓への記念品等については学校により様々で、八生小学校ではプログラムのみであった。

佐藤教育長：私が教育委員会事務局職員だった今から20年以上も前から、花火についてはうるさいからやるなと言う電話などもあり、当時から問題となっはいる。

### 3. 議 事

議案第1号及び第2号について、人事案件であるため、非公開の議決。

(これより非公開とする)

議案第1号 教育委員長及び委員長職務代理者の選任について

《 議決結果 》

可 決

議案第2号 心身障害児就学指導委員会委員の委嘱について

《 議決結果 》

承 認

(これで非公開を終る)

#### 4. その他

五十嵐教育指導課長：スクールコンサートについて説明する。昨年までは各学校や公民館など9会場で行ってきた。昨年はインフルエンザ等の影響もあり、数校が1つの学校に集まって開催することは問題があるという認識であった。今年度は、より良いものを良い場所で体験してもらいたいという趣旨で会場を成田国際文化会館大ホールとした。演奏は東京室内管弦楽団により2回公演をお願いすることとした。全小学校を午前・午後に分けて、いずれかで聞いてもらう形となる。教育委員にも鑑賞していただきたい。

荒井委員長・小川委員は午前の部、秋山委員は午後の部に参加すると申し出。

(山口委員は欠席)

委員：前回の会議の際に、来年の教科書採択についてももう少し詳しくお知らせ願いたいとの話があったので、私から他の委員さんに報告させていただいた。了承願いたい。

委員：サンブルーノ市への訪問の結果を報告したい。

市役所への表敬訪問とともに、図書館にも行ったが、蔵書は本、CD、DVDなどを含めて11万冊。貸し出し数は43万冊ということ。予算は190万ドル、約1億9千万円くらいとのこと。警察署も視察した。日本のように警察と救急が別になってはいないとのことで、1本の電話でどちらも対応可能ということ。子供の虐待への対応について質問したところ、通報があれば、まず子供を保護して、親を拘束してから捜査をするということであった。

議員は4万1千人の人口に対して5人。時間は午後7時からの夜間議会で毎回ケーブルテレビで放映されるということ。市長・副市長も議員の中から選ばれるということで、専業ではなく別に仕事を持っているということであった。

佐藤教育長：教育の方法、インクルーシブ教育の関係では、特別支援学校のようなものが別にあるということではなくて、障害のあるお子さんも通級学級のような形で在籍しているようだった。本当に必要な支援は行われていて、教員だけでなく、言語聴覚士とか、心理療法士とかが配置されているようで、インクルーシブ教育が行われているのを感じた。

アメリカでは障害者差別禁止法があって、働くところも学ぶところも差別してはいけないという法律で、日本に比べてもかなり厳しく罰せられるようになっている。人種問題も絡んでいることとは思うが、日本でも部落差別の問題とも関連するため西高東低の状況にあるが、そのような状況を解消するには時間もかかるし難しい問題ではあると思っている。

委員：日本においても一人ひとりを大切にする教育、インクルーシブ教育を行っている先生もいた。かつて、大村ハマ先生の授業を見させていただいたことがある。クラス全体の学習指導案というものはなく、個人個人のための指導案のみがあるということだった。しかし、毎日の教育で本当に出来るのかという気持ちになる。毎日毎日、個別に昨日はここまで、今日はここまでというようになっている。その先生の授業を参観した人には全体でなく個々の授業だから面白くはない。外部からの視察者の評価はそのようなものだった。成田小学校でも同様な授業を行ったことがあったが、視察に来た方の評価は高くなかった。それは華やかさはないが本当に一人ひとりを見つめた授業だったからだと感じている。労力も費用もかかる方法ではあるが、これまでの方法を見直すことが必要なのではないか。教育はいつもこれまでどおりでよいのか、振り返り考えることが必要なのではないかと感じている。

## 5. 委員長閉会宣言